

# 琉球大学学術リポジトリ

## 沖縄関係 沖縄返還交渉Ⅱ-3（対内）

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2020-05-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/45931">http://hdl.handle.net/20.500.12000/45931</a>

大正記 卷之七 (十一、二、三)

秘  
無期限

~~事務次官~~ ~~官房長~~

~~官房総務参事官~~

アメリカ局長

参事官  
北米一課長

佐藤

多

大臣記者懇談要旨 ( 11 月 27 日 )

報道課長

1. 党首会談

佐藤総理は今日、民社・公明<sup>両党</sup>党首と約40分

会談したが、主として佐藤総理<sup>及び私</sup>からの説明に終止。

野党としては、来るべき国会においてたゞり議論しよう

とのおま<sup>で</sup>りがあるが、私としては解散後の国会におい

て説明したい気持ちだ。

2. 日米首脳会談

(1) ニクソン大統領は、<sup>東</sup>モスクワの<sup>細部</sup>交渉までよくフリー  
 ーフされていた。二つの交渉では秘密の協定とか  
 了解がなかったことは大きなメリットだと思う。返還  
 協定は来年早々から取りかかり、<sup>25日</sup>来年終りの特別国会  
 にかけたい。こうすれば返還は早ければ早いほど  
 いい。

(2) 核抜きについては、ワシントンに行くまで米の回答  
 がなかったが、あのういことでおさまることについて相当  
 の心証といつか~~ある~~物はある。現在ある核の  
 撤去は wait and see だが私としては確信が  
 ある。

(3) 鐵維については、ジネーグ会議という way

OUT があったが、さらに日ジャースはスタンズと

違い日米首脳会談においては鐵維を<sup>かたむき</sup>取り上げず、

大所高所からの議論をすべきだとの考えをニクソンに

進言~~した~~。結局、鐵維の問題は2日目と3日目

に話にはでたが、コミニエにはでなかった。

(4) ニクソンは世界は大きくわけて米ソに政州全

体、中国及び日本の<sup>の対峙</sup>5つに在るとの考えを示し、

中国に対しては日本くわいのところまで米中関係を

もってゆきたいがその方法について知恵はないが、

ということだった。二つちとして、特別に知恵は

ないわけで、そういうざるを得なかったが、コミニエ

の表現は中共を provoke しないよう気を付けてあ

るつもりだ。

これはオフレコだが、ロジャーズは前にも中共と

の関係を改善したいといふ旨から蒋介石につづかれ

るとぐらぐらして私もどうもはっきりしていない

かと指摘したことがある。外蒙との外交関係設定

はいい例だ。

3 人事問題

今まで本省首脳的人事については <sup>諮任に</sup> 非公式に話を

<sup>三々あは</sup>したが、自分は帰国して change of mind をし

たので 御了承願いたい。 実は、下田大使はア

メリカの受けもいいし、神鍋返還についての follow

up もあるし、しばらく留任してもらえことにあつ

た。 対米関係は 経済問題も含め、本旨陣容

をしばらく変えたいことに係る。しかしそれ以外の

人事は動かして気分一新を図りたい。